

## 令和5年度主催事業等の主な変更点について

### I 教職員等中央研修について

#### 1 NITS コア研修（仮称）の新設

教育をめぐる多様な課題に対応するとともに、子どもたちの「主体的・対話的で深い学び」を実現するには、課題を探究し、解決する教師自身の力を高めることが求められている。このため、1～2年の期間を通して課題探究力を育成することを目的とした「NITS コア研修（仮称）」を新設する。本研修は、教師自らが問いを立て、実践の振り返りや対話、知識の習得を重ねながら、実践を展開していくことで、自他の価値観に気づき、実践的な力を磨くプログラムである。

【福井大学教職大学院等との連携・協力により実施】

#### 2 教育行政リーダー研修の新設

学校が、多様な課題に対応する上で、主体的で組織的な学びを重ねることが大切である。このような「学習する組織」としての学校を形作るため、教育委員会等には、学校組織の内発的な改善を促す「働きかけ」を効果的に行う力が求められる。このような力の向上を狙いとして、教育委員会の幹部職員等（課長級、次長級等を想定）を対象とした「教育行政リーダー研修」を新設する。

【講師（予定）：熊平美香氏、日渡円氏、葛西耕介氏、千々布敏弥氏、町支大祐氏】

#### 3 リーダー教員育成研修の新設

今年度まで「次世代リーダー育成研修」と「4～8年目教員育成研修」を別々に実施してきた。現在、学校現場では教員層の若年化により、ミドルリーダー層の育成とともに、ミドルリーダーを支える人材の育成が急務となっている。そこで、前述した2つの研修を統合し、「リーダー教員育成研修」を新設する。

#### 4 インターバル型研修の導入

研修で学んだことが一層実践で活用されることを意図し、インターバル型研修を導入する。インターバル型研修とは、集合・宿泊型研修の実施後、実践を経て、オンライン型（もしくは再度集合）で改めて研修を実施するものである。試行的な取組のため、令和5年度はNITS コア研修（仮称）、教育行政リーダー研修、及び各教職員等中央研修の第1回をインターバル型で実施する。

令和5年度の教職員等中央研修は、原則、集合・宿泊型研修として実施する予定であるが、5研修（校長、副校長・教頭等、中堅教員、リーダー教員、事務職員）の最終回については、幅広い者が受講できるよう、令和4年度同様、オンライン研修として実施する。

また、研修内容についても、受講者自身が主体的・対話的で深い学びの実践者となるとともに、研修で学んだことが一層実践で活用されるよう、改善を図ることとしている。

## II 学校の組織基盤の強化を目的とする研修【学校経営に関する基盤研修】、及び研修のマネジメントを推進する指導者の養成等を目的とする研修【教育課題に対応する指導者養成研修】について

今年度同様、研修を下記のとおりA、B、Cの3タイプに分け、原則3日間のオンライン研修を計画している。なお、当機構以外で実施する「外国人児童生徒等への日本語指導指導者養成研修」と「キャリア教育指導者養成研修」については、それぞれ三重県、富山県にて集合研修として実施する。

なお、令和3年度から概ね3年程度かけて、研修のベストミックスを探るとしており、令和5年度が最終年度となる。その結果を受け、研修手法等を見直し、令和6年度の研修につなげたいと考えている。

タイプ	実施形態	研修の具体
Aタイプ	リアルタイム・オンライン研修	講義・演習は担当講師の指導のもと、同時双方向で実施する。その運営は当機構スタッフが担う。
Bタイプ	リアルタイム・オンライン研修	講義は講師の事前収録動画を、受講者が同時に視聴する。演習はグループ・リフレクションを採用し、ファシリテーターを当機構スタッフが担う。
Cタイプ	オンライン研修	学習管理システムを用い、期間内で繰り返し視聴できる講義動画を配信する。

※令和3年から概ね3年程度かけて、研修のベストミックスを探ることになっているため、A、B、C全てのタイプを3年間で実施することを基本としている。

## III セミナー等

セミナーは、喫緊の教育課題や社会的要請に即応する、提案型の研修という位置づけとしている。各教育センターや受講者とともに作り上げる方式で、そこで得られた成果と課題を分析・検討しながら改善につないだり、当機構の各種研修に反映させたりする。

そのため、今回通知する実施予定表に掲載されていないセミナーが年度途中に計画されることもあるが、上記のような趣旨から積極的な受講を期待する。なお、セミナーの受講対象や開催日程、内容・方法・形態等は課題に応じて柔軟に対応することとしている。